

| 使用者 | 年齢        | 性別 | 疾患名                                        | 症状                                     | パロ導入の目的          | 反応  | 期間<br>(日) | 使用前の状況                                                                   | 使用後の状況                                                                                                           |
|-----|-----------|----|--------------------------------------------|----------------------------------------|------------------|-----|-----------|--------------------------------------------------------------------------|------------------------------------------------------------------------------------------------------------------|
| Aさん | 70台<br>後半 | 女  | パーキンソン症候群<br>レビー小体型認知症                     | 歩行障害<br>記憶障害                           | 不安の軽減<br>対人交流    | 好反応 | 10        | 他者との交流がなく、不安な様子で落ち着きなく過ごしていた。訓練場面では、歩く人や物音など、課題以外の刺激に反応してしまい、注意がそれやすかった。 | 訓練場面では、課題とパロについて注意が向き、注意を持続できる時間が増えた。パロを介した他者交流場面が増加した。                                                          |
| Bさん | 80台<br>後半 | 女  | 脳梗塞(左放線冠-基底核)<br>右鎖骨骨折                     | 注意障害<br>問題行動(徘徊)                       | 不安の軽減<br>徘徊行動の減少 | 好反応 | 21        | 昼夜問わず徘徊するため、センサーマットを設置していた。夜間は帰宅願望有り、荷物を片付けることがあった。                      | 3人部屋の病室にパロを置くと、パロの話題で他者との交流が増え、徘徊することが無くなる。帰宅願望を訴えることも軽減した。                                                      |
| Cさん | 60台<br>後半 | 女  | 頭部外傷<br>両側前頭葉脳挫傷<br>外傷性くも膜下出血<br>急性硬膜下血腫   | 歩行障害<br>発動性低下                          | 発動性の向上           | 好反応 | 5         | 発動性が低く、臥床傾向。基本動作、ADLにおいて声かけや促しが常に必要であった。                                 | パロの頭を撫でたり、呼びかけるなど発動性の向上がみられ、約20分間程度注意が持続した。<br>*導入回数が増えたと反応は薄れてきた                                                |
| Dさん | 80台<br>後半 | 女  | くも膜下出血                                     | 歩行障害<br>脱抑制<br>注意障害                    | 不安の軽減            | 好反応 | 1         | 病棟で目が離せず、不安な様子があった。排泄等の欲求があった際に、易転倒性があり、常に監視が必要であった。                     | 導入時、笑顔となり、撫でたり声をかけるなどの行為が見られ、10分程度注意が持続し、目を離せる時間ができた。                                                            |
| Eさん | 70台<br>後半 | 女  | 左視床出血<br>糖尿病                               | 右片麻痺<br>発動性低下<br>左半側空間無視<br>失語症        | 発動性の向上<br>座位時間延長 | 好反応 | 1         | ベッドで過ごすことが多く、車椅子は1時間程度で疲労、生活場面でも、発動性低下が見られた。                             | パロの囁き声や反応を見て笑顔になり、自ら撫でるなど一時的に自発的な行動が増えた。<br>*時間が経つと、関心は薄れた。                                                      |
| Fさん | 70台<br>前半 | 男  | 頭部外傷<br>右脳挫傷<br>右視神経損傷<br>多発顔面骨折<br>多発骨盤骨折 | 見当識障害<br>発動性低下<br>注意障害<br>記憶障害         | 発動性の向上           | 好反応 | 1         | 発動性低下から離床拒否が目立ち、訓練ができない状況であった。                                           | パロを見かけると、自発的に撫でる行為や、笑顔で話しかけられる。                                                                                  |
| Gさん | 80台<br>前半 | 女  | 心房性脳塞栓症<br>Alzheimer型認知症                   | 右片麻痺<br>注意障害<br>記憶障害<br>失語症            | 不安の軽減<br>徘徊行動の減少 | 好反応 | 54        | 重度の見当識、記憶障害により、焦燥感や帰宅願望が強い。徘徊行為が頻回で常時、目を離せず、作業活動への集中持続は2分程度であった。         | 当初、興味を示さなかったが、訓練時に同行することで、周囲とのコミュニケーションが増加した。また、そばに置いて、作業課題を行うことで、課題やパロへの注意が可能となり、1時間の作業活動が行えるようになった。日中の徘徊も消失した。 |
| Hさん | 60台<br>後半 | 女  | 頭部外傷<br>急性硬膜外血腫<br>両上肢切断                   | 発動性低下<br>注意障害<br>記憶障害<br>遂行機能障害<br>失語症 | 発動性の向上           | 嫌反応 | 1         | 発動性低下から離床拒否が目立ち、訓練ができない状況であった。                                           | パロを提示すると、「気持ち悪い、持ってこないで」と拒否される。以降は使用できず。                                                                         |